

Henri Rousseau, *La Bohémienne endormie (The Sleeping Gypsy)* MoMA, New York



1897年のアンデパンダン展へ出品されたこの作品に描かれるのは、夜の砂漠で深い眠りにつくジプシーと近寄るライオンの姿。手紙に記されたアンリ・ルソー自身の言葉によれば、「マンドリンを弾きながら放浪するジプシーが、壺の傍らに疲れ果てて深い眠りにについている。その時、一匹のライオンが通りがかり彼女を見つけるが、決して噛みつかない。それは非常に詩的な月の光のせいなのだ。」と、ライオンとジプシーの関係性を解説しています（*Wikipedia, MoMA* カタログより一部改変転載）。

第 39 回日本分子生物学会年会ポスターデザインでは、オリジナル画に次のような修飾と想いが込められています。

ジプシーと月をそれぞれ生命科学者と細胞核に見立て、夜空にはたった今彼女が見ている夢(セントラルドグマのようなもの)が描かれています。その夢と彼女の境にいるライオン(現実的な何か)の眼は、優しくも怖くも見えます。ライオンは敵なのか味方なのか、それは研究者の夢の中味次第なのかもしれません。